



ライト兄弟の飛行機がお目見え ～「ライトフライヤー1号機」復元機にファンが感激

西日本航空協会（福岡市）は、人類初の有人飛行に成功したライト兄弟の飛行機「ライトフライヤー1号機」の復元機を作り、飛行を目指しています。その機体が、現在、枕崎空港の格納庫に納められています。

5月26日には、滑走試験を行う機体を一目見ようと約90人の飛行機ファンなどが訪れ、現れた機体を間近で見学。茅野雅博君（別府小3年）智裕君（同2年）の兄弟は、「昔はこんな機体だったのかと感心した」「ぜひ空を飛ぶところを見てみたい」と目を輝かせていました。

この日は、あいにくの強風のため滑走試験は延期されましたが、訪れたファンに夢を与えてくれました。



かつおビンタ料理で熱烈歓迎 ～枕崎小PTA主催、新任先生歓迎会

枕崎小学校に赴任された先生たちを『かつおビンタ料理』でもてなす恒例の歓迎会が4月27日、市内のホテルで行われ、赴任された8人の先生を歓迎しました。

豆かつおのほりを頭に付けた先生たちは、指南役である市田芳一さんのユニークな指導に従い、かつおの『ビンタ』にかぶりつきました。最後に、市田さんが「これで枕崎の門をくぐったということではよろしいですか」と呼びかけると、保護者らが拍手で応えていました。

3年1組を担当される小牧正孝教諭は、「ビンタ料理は風味豊かでおしかった。子どもたちと一緒に元気にがんばりたい」と話していました。

救急隊と病院の連携強化で救命率の向上を ～枕崎消防署で看護師同乗研修

今年4月から6月まで、枕崎消防署において看護師同乗研修が行われ、市立病院の看護師26名が救急現場における研修を受けています。これは、病院関係者が救急現場や救急車内の処置などを理解することにより、患者の病院収容後における連携を円滑にし、救命率の向上を図る目的で行われているものです。

取材をした5月16日には、同病院の田淵晴美看護師が研修を受けており、救命講習を受けつつ緊急出動時には救急車に同乗して、救急隊と行動を共にしていました。田淵看護師は「救急の一連の流れを知ること、患者に対して確実な対応をより早くできると再確認できた」と連携の大切さを話してくれました。

この日は枕崎中学校生徒の職場体験学習も行われており、救命講習などを受けていました。また、取材・写真撮影も同中学校の前田健吾君と揚村健吾君が行いました。



春の風を感じて郷土散策 ～健康歩こう会

市スポーツ少年団の主催による、健康歩こう会が4月21日、市総合体育館から桜山方面を回る6キロのコースで開催されました。市内のスポーツ少年団8団体と一般参加者合わせて111名が参加。途中、田の神様や喜入氏家代の墓などの史跡の見学をしながら、枕崎の風土や歴史を肌で感じていました。



枕崎野球スポーツ少年団が西日本大会へ ～全日本学童軟式野球大会県予選大会

第27回全日本学童軟式野球大会県予選大会が5月3・4日、市営球場などで開催されました。

県内各地から地区予選を勝ち抜いてきた16チームが参加する中、枕崎野球スポーツ少年団が、第4位の成績を収めました。これにより、7月に和歌山県で開催される「高野山旗西日本学童軟式野球大会」の出場権を獲得し、鹿児島県代表として出場します。

▼写真は、堂々とした選手宣誓を行った、枕崎野球スポーツ少年団の泰一真キャプテン（6年）。



グラウンドゴルフを通して地域交流 ～立神校区ふれあいグラウンドゴルフ大会

スポーツを通して大人と子どもがふれあい、地域活性化を図ろうと、立神地区グラウンドゴルフ大会が5月19日、総合グラウンドで開催されました。今回で6回目。

立神小学校5・6年生、立神中学校生、校区の大人など計44チームが参加。大人たちが子どもたちのチームにアドバイスする光景が見られるなど、和やかな雰囲気で行われました。結果は次のとおり

【団体】◎青少年の部：①塩屋中学生B、②塩屋中学生A、◎一般の部：①下野原同好会1組、②立神フレンド1組【個人】◎青少年の部：①園田裕隆、②山下俊英（教諭）◎一般の部：①長谷和男、②米山日出男



立神野球スポーツ少年団が快挙！ ～九州学童軟式野球県大会で優勝

九州学童軟式野球県大会が4月28・29日に南種子町で開催され、各地区予選を勝ち抜いた県下17チームが参加する中、立神野球スポーツ少年団が見事に優勝を果たしました。これにより、8月25・26日に佐賀県で開催される九州大会に出場することになりました。

片平健生キャプテン（6年）は、「練習を頑張って、九州大会でも28人の部員全員で優勝を目指していきたい」と力強い抱負を述べてくれました。



水産業の担い手目指し大海原へ挑戦 ～薩摩青雲丸出航式

鹿児島水産高校の実習船「薩摩青雲丸」（645ト）の第1次出航式が4月27日に行われ、専攻科1・2年生23人が遠洋航海実習のため、約70日間の航海に旅立ちました。実習生は、ハワイ沖での海洋観測やまぐろはえ縄操業実習などにのぞみます。特に、2年生14人にとっては4回目の航海実習となり、総仕上げとなります。

式では、実習生を代表して日高仙一君（専攻科1年・写真）が「心身ともに成長して元気に帰ってきます」とあいさつし、生徒や父母など多くの関係者に見送られながら船に乗り込んでいきました。